

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	愛の家ジュニア			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 ～ 2025年 12月			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年 1月 ～ 2025年 12月			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられている	モニタリングやアセスメントを行い、定期的なケア会議の中で職員間の情報共有を徹底しています。個別の支援計画に基づき、事業所として一貫性のある支援を行っています。	外部研修への積極的な参加に努めます。専門的な知識や療育についての学びを深め、現場にて還元することで支援の質のさらなる向上を目指します。
2	事業所の職員から共感的に支援をされている	日々の小さな変化に気づき、こどもの心に寄り添った声かけをしています。また「できなかったことができた」を見逃さず、褒める支援を積み重ねることでこども達との信頼関係の構築に努めています。	職員間で支援の振り返りを行う際、個々の特性に合わせた具体的な声かけのバリエーションを増やし、事業所全体として心の通い合った質の高い支援を目指します。
3	こどもが安心感をもって通所している	次の行動に見通しが持てるよう事前の声かけや視覚的ツールを使用しています。パニックや不安が生じた際はクールダウンスペースを確保し、落ち着ける環境整備を行っています。	小さなサインを敏感に察知し、心の揺れに即座に対応できる体制を強化します。成功体験を積み重ね、「受け入れられている」と実感できるような肯定的な支援を充実させます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知説明がされ、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	日々の送迎時などの短時間の会話が主となっており、落ち着いて相談できる「相談窓口」や「具体的な手続き」についての積極的な周知が不足していたことが要因と考えられます。	保護者様との信頼関係を深め、些細なことでも相談しやすい雰囲気作りを徹底します。今後は定期的な面談の案内またはアンケートを実施し、ご意向を吸い上げる機会を増やすとともに、窓口の周知を再徹底します。
2			
3			